

分類 番号	A17	取組 名称	脱炭素化社会を実現する観点から見る大学生・小学生と地域住民の意識と行動 の変容に関する調査研究
研究代表者所属・職名：		生命環境科学研究科・教授	氏名：松原 斎樹
研究担当者：			
京都府立大学（松原斎樹、羽原康成）			
外部分担者・協力者（戸田都生男氏、木原浩貴氏、榊貢氏）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都府南丹市、大野区評議員会			
【研究活動の要約】			
<p>南丹市美山大野区をフィールドとしている美山木匠塾は、5 月現地調査、9 月に制作合宿を行い add-vench2 を制作し、10 月の運動会・感謝祭において、住民に披露をした。また、ホームステイを含めて現地調査を行い、平成 29 年に作成した大野区の紹介リーフレットに沿って新たに絵本を作成した。また、この活動のプロセスにおける学生と住民の意識の変化を調査し分析し、学会発表と論文投稿を行った。</p> <p>温暖化対策に関する学生約 600 名を対象とした意識調査を行い、その成果を、学会発表・論文投稿を行った。また、市民の温暖化対策に関する意識調査を行い、約 2,000 名から回収して分析を行った。小学生の環境教育である夏休み省エネチャレンジは、19,000 世帯以上が参加しており、平成 29 年度に分析した結果を、人間環境学会と建築学会で発表し、発表賞を受賞した。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>美山木匠塾では、美山大野区の振興のために、add-vench2 の制作と大野区紹介リーフレットに沿って新たに絵本を作成して住民への報告会を開催し、子供たちに塗り絵体験をしてもらった。平成 30 年 11 月 17 日～18 日に開催された大野ダムもみじ祭りにおいて、美山町大野の仁清の里づくり委員会と共同して制作物を活用した販売ブースを設けた。また、add-vench2 は屋外ステージの閲覧席や遊具として活用された。平成 30 年 5 月 3 日～5 日に現地調査のための合宿を実施した。期間中に、共創をテーマにした交流会を、参加学生が主催して行い、住民が食材を持ち寄り学生が調理して交流した。</p> <p>夏休み省エネチャレンジの分析結果からは、実行度が高いほど高得点群が多く、省エネチャレンジを行うことで、環境配慮意識・行動が向上すること等がわかった。毎年継続することの意義が明確になり、温暖化防止活動推進員や教員が毎年継続的に活動することの意義が確認された。</p> <p>学生と市民の意識アンケートからは、2015 世界調査結果から推測された日本の学生の傾向が確認され、20 代は脱炭素社会を受け入れることが困難と考える傾向にあった。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>1. 成果報告会 H31/3/19 京都府立大学稲盛記念会館 105 温暖化防止活動関係者等約 20 名</p> <p>2. 論文掲載 木原浩貴、松原斎樹：脱炭素社会に対する意識・態度の個人差に関する研究～大学生アンケート調査をもとに～、環境情報科学論文集、32 号、191-196、2018</p> <p>3. 学会発表 羽原康成他：木のものづくり活動参加者の意識と行動の変化に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、2018 金悠希他：児童と保護者の環境配慮行動に関する実態調査、— 京都府夏休み省エネチャレンジ参加者の分析—日本建築学会大会学術講演梗概集、2018</p>			
【お問い合わせ先】			
生命環境科学研究科 建築環境工学研究室 教授 松原 斎樹			
Tel: 075-703-5426 E-mail: n_mats@kpu.ac.jp			

参考 (イメージ図、活動写真等)



H30 年 制作物 add-vench2



H30 年 制作の様子



H30 年 大野区民運動会・感謝祭



H30 年 大野ダムもみじ祭り



H30 年ぬりえ絵本読み聞かせ



H30 年 ホームステイ

平成 30 年度 ACTR